

BOOK

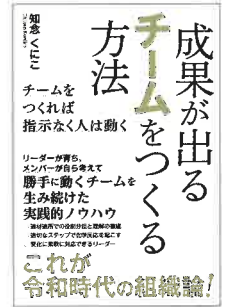
中小企業の魅力を生かして、令和時代の組織づくりをスムーズに導く実践書 『成果が出るチームをつくる方法 チームをつくれれば指示なく人は動く』

「これが令和時代の組織論!」と銘打たれた本書は、中小企業に向けた組織づくりの解説書です。

中心となるのは、著者の提言する「チーム組織」。横のつながりを重視し、フラットで比較的小さい規模のチーム型組織は、上意下達になりがちな従来の階層型組織の弱点を払拭。時代の変化が激しく、個々人の主体性が求められる今の時代に適合する組織形態だと唱えています。

本書では、チームの目標のつくり方といった準備段階から、チームリーダーの育て方、チームを維持するためのポイントなどプロセスを追って解説。人材育成や組織強化のためのリソースが少ないと悩む中小企業でも実践につなげられるよう構成されています。特徴的なのが、中小企業の魅力こそがチーム型組織に向いているという点。中小企業の力を再発見できる内容にもなっています。

■著/知念くにこ 発行/つた書房 定価/1,650円(税込)



BOOK

サイバー化で年商1億円超を達成した若手起業家が贈る、DX成功への指南書 『DXを成功させるサイバー企業戦略』

今や企業経営に不可欠な「DX(デジタルトランスフォーメーション)」ですが、概念は理解すれども実施の一步が悩ましいという声を聞きます。さらに「RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)」「メタバース」「オープンイノベーション」など企業か抱えるIT課題は多く、社内外にIT人材を求めると少子高齢化を背景にマンパワーが乏しいことが、一步を踏み出しづらい要因のようです。

そんな現状でDXを成功させるには「企業のサイバー化しかない」と唱えるのが本書の著者。20歳で起業、会社をサイバー化することで自転車操業を脱し、20歳代で年商1億円超を実現しました。

その実体験を基に「サイバー企業とは何か」といった概論から、サイバー化を進めるためのポイントなど実践方法を解説。「未来のために新しい形の経営を」に挑む著者の思いが詰まった一冊です。

■著/山口 知宏 発行/現代書林 定価/1,540円(税込)



BOOK

パンデミックに中小企業はどう立ち向かったのかを事例から学ぶ一冊 『新型コロナウイルス感染症と中小企業』

2019年に始まった新型コロナウイルス感染症によるパンデミック。人流抑制や感染症対策などで働く環境は様変わりし、世界中で経済活動の縮小や停滞が起きました。過去に経験したことのないこの試練に、日本企業はどう向き合ったのでしょうか。

本書では日本企業、中でも中小企業に特化して、新型コロナウイルス感染症が中小企業経営に与えた影響や、その影響に対する経営実践の姿を具体

的な事例を挙げながら解説しています。

また、同志社大学中小企業マネジメント研究センターの調査データを基に、統計数値による状況分析を加え、逆境を乗り越える中小企業について多面的に考察しています。

新型コロナウイルス感染症を経済学の観点から分析した書物は数々ありますが、中小企業に特化した本書は他に例を見ない一冊といえるでしょう。

■著、編集/関 智宏 発行/同友館 定価/3,850円(税込)



BOOK

どんな職場でも起こり得る「ズレ」の事例と解決法が満載 『職場のズレ解消図鑑』

たとえば上司と部下の認識の「ズレ」。しっかり情報共有したはずなのに、なぜ?—そんな経験をした人は多いのではないのでしょうか。

はからずして起こる職場の「ズレ」は、どんな職場にも発生し、社会や職場環境の変化が急速な昨今では気付かぬうちに広がっていることも。大きなむずみになる前に早く解消したいものです。

本書では、採用や人材育成で起こる「ズレ」から、

経営者と従業員間、従業員同士、働き方改革の中で起こる「ズレ」などさまざまな「ズレ」を列挙。著者の実体験や企業支援活動の学びから、その原因と解決方法を紹介しています。

「上司も部下も迷い込むリモートワークの森」といったわが身に迫る事例が豊富。イラストや図解で視覚的にも理解しやすく、経営者だけでなく、違和感を抱えた全ビジネスパーソンにお薦めです。

■著/井上 幹世 発行/フローラル出版 定価/1,980円(税込)

